2019.7.25

第 7 回 MaSC 技術交流会〝Real Exchange″を開催しました

第 7 回 MaSC 技術交流会〝Real Exchange″を、2019 年 7 月 25 日(木)に東北大学金属材料研究所講堂にて開催しました。今回は、「バルク磁性材料研究の現状と課題」をテーマに、第 39 回猿橋賞を受賞された梅津理恵准教授(金属材料研究所)を特別講演者としてお迎えし、140 名を超えるご参加をいただきました。

MaSC 副センター長　石山和志教授

MaSC 副センター長である、石山和志教授の挨拶で開会し、講演の前半は、杉本諭教授(工学研究科)による「永久磁石研究の現状と課題」と題した基調講演をいただいた後、梅津理恵准教授から「ホイスラー合金の磁気機能性」と題した特別講演をいただきました。続いて中村健二教授(工学研究科)と TDK(株)の榎戸靖様からご講演をいただき、前半を終えました。

杉本諭教授(工学研究科)

梅津理恵准教授(金属材料研究所)

会場の様子

休憩を挟んで、後半は(株)デンソーの藏裕彰様、(株)トーキンの町田浩明様、日立金属(株)の佐野博久様、松尾良夫特任教授(オープンイノベーション戦略機構)の4名から、それぞれ大変興味深いご講演をいただきました。その後、MaSC 客員教授の多喜義彦先生の進行で、金属材料研究所長の高梨弘毅教授にもパネラーとしてご登壇いただいて、パネルディスカッションが行われ、バルク磁性材料に関する産学連携の在り方について有益な意見交換がなされました。

多喜義彦客員教授

パネルディスカッションの様子

最後に、共催いただいた日本学術振興会第 147 委員会副委員長の中川活二日本大学教授よりご挨拶をいただき、大盛況のうちに閉会しました。

講演会終了後、隣接のレストラン萩へ移動し、意見交換会が催されました。講演者の方々も含め約 80 名のご参加をいただき、和やかな雰囲気の中、活発な意見交換が行われました。

これからも、最新の情報発信と産学が気軽に集える交流の場をつくることに努め、産学連携をより活発に推進して参ります。